

ケナガカブリダニのハダニ類に対する嗜好性

福島県果樹試験場病理昆虫部・平成9～10年度試験研究成績書

1 部門名 果樹－リンゴ－病害虫防除 分類コード 04－01－23000000

2 要 旨

リンゴ用複合交信攪乱剤を利用し、殺虫剤を削減した防除体系下において、ハダニ類の天敵であるケナガカブリダニの生物農薬的な利用技術を確認するため、餌となるハダニの種類に対する反応の違いを検討した。

(1) 餌卵の種類をかえてケナガカブリダニを卵から飼育した結果、ナミハダニの卵を餌にした場合、幼虫から成虫になるまで死亡する個体は認められず、幼虫から成虫になるまでの期間は、 3.18 ± 0.34 日(平均値 $\pm$ 標準偏差)であった。第2若虫までの捕食量は、 12.55 ± 3.56 卵(平均値 $\pm$ 標準偏差)であった。

(2) リンゴハダニの卵を餌にした場合は、第1若虫期までに半数以上が死亡し、第2若虫まで発育した個体も成虫まで発育することができなかった。第2若虫まで発育した個体の捕食量は、 1.20 ± 0.45 卵(平均値 $\pm$ 標準偏差)であり、捕食した個体は赤みを帯びた。これらのことから、リンゴハダニの卵は、ケナガカブリダニ幼若虫の餌として不適と判断された。

(3) リンゴハダニが高密度のほ場条件下で行ったケナガカブリダニ放飼試験の結果、リンゴハダニがほぼ単独の発生条件下では、樹上での定着が認められなかった。

(4) 以上の結果から、ケナガカブリダニのリンゴハダニに対する捕食効果は期待できないと判断された。殺虫剤の削減体系下において、リンゴハダニが優占すれば、それを捕食する天敵が増加すると予想されるので、リンゴハダニを好む天敵を探索するとともに、ほ場でのハダニ類と天敵の動態を継続調査する必要がある。